

新年の御挨拶

明けましておめでとうございます。本会会員並びに関係機関の皆様にかかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、今年の干支の庚子は、子孫繁栄、経済繁栄の年と言われておりますが、平成の三十年間で生じた「少子高齢化・人口減少」という構造的な問題が、経済分野では人手不足、人材の確保・育成、近年叫ばれる後継者問題などを引き起こすことになり、中小企業の命運を左右する喫緊の課題となっている今日、果して繁栄の年となるか否か、危惧するところであります。

将来に亘り、我が国が高い競争力を堅持するためには、フランスのような多様な出産・育児奨励策の導入など、出産・育児と仕事が両立出来る一層の環境づくりが望まれます。

加えて、「さとり世代」と揶揄される若者は、何事にも身の丈をよしとする傾向の中で、仕事に対する姿勢も変化しており、このような働き手の減少と質の変化は、中小企業経営の舵取りを一層困難なものにしております。

こうした状況の中、本会では、昨年より中小企業の「経営力強化・生産性向上」と「安定した事業環境づくり」を目指した事業を展開しております。その中でも、中小企業の生産性向上に繋がるものづくり補助金や、関連法が段階的に施行される働き方改革支援、後継者不足に対する事業承継支援、自然災害への対応としてのBCP普及・策定支援などは、人財の確保・育成と共に、本年も注力すべき重点施策として事業を強化して参ります。

また本年は、56年振りに東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。昨年のラグビーワールドカップに引き続き、訪日外国人の大幅な増加が予想されますが、外国人材の受入れ・共生は、今後、避けては通れないテーマであります。

本会でも、外国人留学生と企業のマッチングや技能実習生の受入れを行う監理団体の運営支援等の事業を実施しておりますが、会員組合の皆様には、こうした本会の支援策を積極的にご活用戴くと共に、傘下組合員各位への普及啓発にご協力戴ければ幸甚であります。

中央会役職員一同、中小企業・組合各位が大いなる飛躍の年を迎えら

れますよう、新年の決意も新たに業務に邁進することをお誓い申し上げます。

結びに、大きな高揚感・期待感と共に開催されるオリンピック・パラリンピックを契機として、日本経済を覆う先行きへの不安感が払拭され、我々中小企業が明るい未来を思い描き、大きな夢を持てる時代が到来することをご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

令和二年一月一日

静岡県中小企業団体中央会
会長 諏訪部 敏之